

メッセージアウトライン コリント人への手紙 第一1:18~25 「十字架のことばは神の力です」

[18-19]「十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。それは、こう書いてあるからです。『わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さをむなしくする』」

19節はイザヤ書29:14からの引用。預言者イザヤの時代(B C 8世紀後半)は人々が口では神をあがめるが、心は遠く神から離れ、信じることをしない時代であった。しかし、それはまたいつの時代にも当てはまることである。「十字架のことば」とは、イエス・キリストの十字架の贖いによる救いの福音のこと。自分の知恵や賢さを土台として、福音を愚かなこととし、受け入れない人々は滅びに至る。しかし、十字架につけられたイエス・キリストを自分の救い主として信じ受け入れる者にとっては、それは確かに救いをもたらす神の力なのである。

[20]「知者はどこにいるのですか。学者はどこにいるのですか。この世の議論家はどこにいるのですか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか」

知者、学者、議論家の思想、哲学、議論等も人に救いを与えるものではなかった。神はそのようにしてこの世の知恵を愚かなものとされた。

[21]「事実、この世が自分の知恵によって神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。それゆえ、神はみこころによって、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです」

アダム以来、墮落し罪の中にある人類がいかにも自分の力で知恵や知識を積み上げて神を知るに至らない。これは神の知恵による。ではどうすれば神を知り、救われることができるのか。それはこの世の知者には愚かに聞こえる宣教のことば(イエス・キリストの十字架の福音)を通してであった。神は救いの道をこのように定められたのであった。

[22-24]「ユダヤ人はしるしを要求し、ギリシヤ人は知恵を追求します。しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えるのです。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かでしょうが、しかし、ユダヤ人であってもギリシヤ人であっても、召された者にとっては、キリストは神の力、神の知恵なのです」

パウロはユダヤ人とギリシヤ人の考え方をよく知っていた。しかし彼らにとってはつまずきや愚かに思えても、キリスト者は断固としてキリストを宣べ伝える。なぜならそれこそ民族、国籍、性別、年齢を越えて人々が救いに召されるための神の力、神の知恵であるから。

[25]「なぜなら、神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです」

神を人間と同列に並べたり考えたりしてはならない。イエス・キリストの十字架がたとえ人の目には神の愚かさ、神の弱さと見えたとしても、それは信じるすべての者に救いを与える神の力であり神の知恵なのである。